

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事有限会社		
事業所名	グループホームえにし苑		
所在地	那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	平成29年10月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp1/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成29年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木県最東部の八溝山系の山あい広がる元小学校廃校を利用した施設です。地域の方にとっては親子代々の学び舎でもあるので、今までは小学校や地域のイベントにも沢山の方が出席されており懐かしい馴染みの場所でもあります。学校の廃校後に施設ができ、元学校に明かりがついていることに喜んで頂いております。地元の職員も多く、ご利用者様・職員とも顔馴染みの関係でもあります。えにし苑の農園で採れた小豆こなしをしたり、芋がらづくりをしたりさつま芋、じゃが芋、ねぎ等を使って芋煮会をしたり収穫の喜びを感じて頂いております。毎日の生活で出来るだけ野菜の皮むき、刻み等をして頂き、生活にメリハリをつける工夫をしております。併設する小規模のご利用者との交流も図れるように支援しています。毎年行っている盆踊りのやぐらは今年えにし苑で新調しました。太鼓やお囃子は地域の方や子供たちにも入って頂き盛大に出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、地域の方の誰もが慣れ親しんだ小学校を改築して造られたグループホームである。
- ・夏祭りは地域のボランティアの協力により、やぐらを建てて、盛大に行われている。また、毎年そば祭りも開催して、そばを地域の方に振る舞っている。
- ・建物内の交流スペースを町主催の体操教室に提供している。夏祭りを行うため町所有の敷地を借りるなど町と事業所との協力関係が良好である。
- ・協力医は本人・家族と話し合い、事業所内で看取りを行っている。家族も付き添えるように簡易ベッドを備えている。
- ・地元の新鮮な食材を使い、手作りの料理を提供している。また、事業所の畑から採取した野菜も利用している。料理の品数も多く、利用者にとって楽しみのひとつである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームえにし苑	「介護を必要としているご利用者様・ご家族様・地域社会に対して、安全と安心と満足を提供し認められ選ばれる事」法人共通の理念掲げ、理念に沿った考え方・行動が出来るよう実施している。	理念をミーティング時に唱和している。地域住民と協力して夏祭りを開催したり、事業所のカラオケルームを提供するなど、理念にある地域社会への取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に参加し、缶拾いや草刈り等に参加している。えにし苑主催の盆踊り大会やそば祭りを行い親しまれている。	夏祭りは地域のボランティアの協力によりやぐらを建て、盛大に行われている。また自治会の新年会に参加して交流を図っている。毎年そば打ち名人に来てもらい、そば祭りを開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花の風まつりにおいて、認知症理解の為に寸劇をしています。えにし苑の広報に介護豆知識を記載し、地域に回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における意見は、重要な財産ととらえ改善努力を積み上げている。	参加者は、自治会長や民生委員、行政職員、家族代表など毎回15名程の参加者がいる。会議では、事業所の報告や地域で孤立している高齢者の情報提供などがある。情報提供により、事業所の利用に繋がるケースもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議においてはもとより、窓口足を運んだり、町主催の会合に出席する事で「報・連・相」をとるよう努めている。	事業所の交流スペースを行政主催の体操教室に提供している。夏祭りをを行うため、町所有の土地を会場として借りたりと、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に係るマニュアルと社内研修により全職員理解している。玄関は日中施錠していない。	年1回は事業所内で、身体拘束をしないケアの会議を行っている。玄関の施錠はなく、利用者が気軽に外出できる環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修により全職員理解している。虐待は絶対見逃さない。トイレや入浴時等、身体の傷やあざ等をチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行っている。活用できる体制をとっている。現在利用状況はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一項目ずつ説明を行い、理解納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来苑時や電話等により、要望や意見を聞いている。意見は反映されている。	職員は家族が面会に来ると、必ず日頃の様子を伝え、意見も聞いている。日頃から職員が余裕をもって接するようにして、利用者からの意見を聞いている。利用者からの意見は、会議等で検討して実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで意見や提案を出し話し合い、反映されている。	利用者からの意見を代弁することが多く、そのことで事業所の運営改善や新たな行事に繋がっている。また管理者は日頃より事故防止の観点から、ヒヤリハットを提出するように職員へ伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績・勤務状況を把握している。やりがいや向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、研修を受けレポートを提出している。介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流会に機会あるたびに出席している。出席した職員は、ミーティング時に内容を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、ご本人も含めご家族から話を聞き、安心して入所して頂いている。職員はいつも傾聴を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様の基本情報を、出来るだけ細かくお聞きし情報共有をし、ご家族の要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴において、家族にとって必要な支援を見極め、利用者様の状態によっては、併設の小規模多機能型居宅介護などの、他サービスでの対応が可能か検討し、提案を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、洗濯干し・たたみ・食器洗い・庭の草むしり等をして頂いている。ご利用者様同士も協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、居室で一緒にお茶を飲んでゆっくり話をして頂いている。通院など協力して頂ける事は、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ催し物の場として苑を利用して頂き、馴染みの方が出入りしやすい環境づくりに努めている。	利用者の行きつけの美容院への支援を行っている。家族の協力の下に馴染みのお蕎麦屋へ行っている。馴染みの方が来て、利用者の部屋で話をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座る位置を考え、安心して過ごせるようにしている。職員はいつでもご利用様の助言に、注意を傾けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談などにのるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアミーティングを行い、最善の策を検討し実施している。	利用者から献立や外出先の希望などが聞かれる。また、料理の調理方法を教えてもらうこともある。意思疎通の難しい方は、本人の表情から読み取り判断している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族から得た情報を基に、本人の生活歴を把握し、本人本位の考え方に沿って生活して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあった時には「報・連・相」を行い現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題が出てきた場合には、ケアカンファレンスを行い、その結論に基づいて計画の見直しを行っている。	料理の手伝いや洗濯物干しなど、自分でできることを取り入れた介護計画を作成している。家族や利用者、職員等で年1回の介護計画を作成するが、状態変化によって介護計画を見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・業務日誌・業務連絡により、職員間で情報の共有が出来ている。それにより計画の見直しも出来る。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出する機会を多く設けたり、ボランティアの来苑を取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園・小学校・中学生のマイチャレンジ・ボランティア等の受け入れを積極的に行い、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診を受けている。緊急時対応等、自慢できるだけ支援がされている。	本人が希望すれば今までのかかりつけ医の受診もできるが、利用者全員が協力病院での往診対応となっている。隣接する小規模多機能事業所の看護師の協力体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化・異常の早期発見に努め、すぐに報告している。適切な医療を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けての拡大カンファレンスで得た情報を、ミーティングにおいて話し合い、早期の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を主治医の意見を伺いながら、家族と方針を共有している。	医師は本人・家族と話し合い、事業所内で看取りを行っている。家族が本人に付き添うことができるように、居室に簡易ベッドが準備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡時の組織図を作成してある。AEDの使い方等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。地域の方の緊急連絡協力を得ている。	避難訓練を年2回実施している。地域の協力を得るため、連絡網の整備ができています。備蓄も食料だけでなくオムツも用意している。	地域との連絡網を整備しましたが、実際の避難活動の協力範囲の取り決めが定まっておられません。協力範囲を確立させましょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し尊厳を損なわないよう、言葉かけや対応に注意して接している。	トイレの誘導は他者に聞かれないように、耳もとで声掛け後支援している。職員が一人ひとりの人格に配慮するように、プライバシーに関する研修を年1回行っている。	馴れ合いにならないように努力していますが、呼び名に対する意識が欠けていることがあります。サービス提供者という意識の再確認をお願いします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替え時の洋服等を、自己決定できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活している。起床・食事・就寝等、出来るだけその時の状況に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、自分で洋服を準備して頂いている。散髪もしたい時にして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から要望をお聞きし、献立に反映している。野菜の皮むきや片付けを職員と一緒にしている。	地元の新鮮な食材を使用し、手作りの料理を提供している。また、事業所の畑から採取した野菜も食事に提供している。料理の品数も多く、利用者にとって楽しみのひとつである。利用者は料理の下ごしらえなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の嗜好・アレルギー・加糖制限・水分制限を把握し提供している。水分量は一日を通して1,400ccとるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをつかみトイレでの排泄に向け支援している。	排泄チェック表を使い、利用者の排泄パターンを把握している。自立支援の取組みにより、リハビリパンツから綿製のパンツへ変化した利用者もいる。そのため利用者の数名は介護度が軽くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により、排便マイナス3日目から、起床時に冷水や牛乳にオリゴ糖を入れ、飲んで頂き自然排泄できるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、会話をしたりご自分のペースで入浴されている。	週に3回は浴槽に入れるように入浴支援をしている。職員は利用者がリラックスできるように会話をしながら支援している。仲の良い利用者は二人で入浴することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後午睡されている。夕食後はテレビを見たりして、時間をゆっくり過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・用量・副作用を理解している。処方が変わった時には、往診時の業務日誌の記録により理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草むしり・小豆こなし・干し芋・干し柿作り、洗濯たみ・洗濯干し・食器洗いを進んで役割して下さっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜・紫陽花見学・紅葉ドライブを兼ねた外食を行っている。	桜や紅葉などの季節の花を見に外出している。利用者は、道の駅やレストランに出かけると普段よりも食欲が旺盛になっている。日中は事業所の周りを散歩している。1月には初詣にも出かけ新年を迎えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分の必要な物を購入したい時には、希望に応じて支援している。立替金により買い物はいつでもできます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの依頼があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や洗面所には季節の花を飾っている。ホール内には季節感あふれる作品が飾ってある。玄関のタペストリーは季節の飾りつけを行い、楽しみに来られるご家族もおられる。	小学校当時の黒板や机などを残しつつ、生活しやすい環境にしている。玄関に季節のタペストリーを飾り、季節感を出している。建物の中が広いので、冬季は廊下にストーブを置いて快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置の工夫をしている。玄関や廊下には休憩できる椅子やマッサージチェアがあり、毎日マッサージを楽しまれている方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・タンス・写真など好みの物を持って来られている。落ち着いたものがあれば、持ち込んで下さるようにご家族に話している。	小学校の教室を改造して、各居室に造り替えている。居室からは校庭や山の景色が見える。居室には自分の好きなものを持ち込める。夫婦で一つの居室に入居することも出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能の活用で、出来る事を持続させて頂き、出来る限り自立した生活ができるように支援している。		